

Simon: Why did you decide to go to Cambodia and Vietnam?

Tomoka: テレビや本で途上国について、そこで活動されている助産師さんについて知り、将来私も海外に関わってみたいなあと思っていました。そこでまずは自分の目で見てみようと思い、ベトナムとカンボジアに行こうと決めました。



Simon: How did you plan your trips?

Tomoka: インターネットで海外ボランティア活動について調べ、大手の旅行会社のスターツアーにたどり着きました。旅行会社という安心と、プログラムの内容が医療・福祉であったこと、担当者の対応が良かったことが決め手になり、ベトナム（一回目）カンボジア（二回目）のツアーに参加しました。



Simon: What kind of things were you doing there?

Tomoka: ベトナムでは、枯葉剤の影響により奇形児として生まれた子どもたちが過ごしているツーズー病院を訪れ、子どもたちと触れ合ったり、「ベトちゃん ドクちゃん」で有名なドクさんとの談話、奇形児のホルマリン漬けを見せていただきました。また、視覚障がい者施設・福祉施設・孤児院の見学や交流をしました。この他にも戦争について学ぶ機会がありました。

カンボジアでは孤児院で副園長先生のお誕生日会を企画し、子どもたちと協力して作り上げました。この過程で“教育”ということを中心に置き、集団行動（チームで協働してやること）や図工・音楽などにつながるような工夫をしました。また最貧困層の家を訪ねたり、貧困の女性たちを支援しているNGOの活動を見学しました。地雷についても学びました。



Simon: Did you learn anything from these experiences?

Tomoka: ベトナムでは、私がどれほど日本について知識不足なのかを思い知らされました。「日本のようになりたいんです」と言われても日本の現状を十分に理解できていなかったのも何も言えませんでした。特に福祉について知る必要があると思い、ボランティア活動を積極的に始めるきっかけとなりました。また、訪問場所でベトナムの方から直接お話を聞くことで様々な問題の背景にあること（ベトナム戦争や社会主義国家であることなど）まで知ることが出来ました。このことから途上国において活動するにあたり“その国を知る”ということがどれほど大切か気づきました。

カンボジアでは格差をすごく感じました。孤児院では園長さんのお子さんは良い服を着て、他の子どもたちは汚れた服を着ていました。子どもたちの言動にも気になることがあり、途上国において孤児院はある意味ビジネス化しているような面が垣間見られました。ボランティアとは何なのか、この子どもたちに本当に必要なことは何なのかを考えさせられました。二か国を通してそれぞれのツアーで出会った仲間との関わりも大きな刺激となりました。



Simon: Do you have any advice for students who read this?

Tomoka: 百聞は一見に如かず。まずは自分の目で見てみるべきです。興味関心のあるなら、何であっても早いうちから挑戦するべきだと思います。時間は今しかない！！医療や福祉に縛られず様々な経験を積んでください。

Simon: Thanks very much for sharing with us.